

右之藥方凶年之節邊土之者雜食の毒にあたり、又凶年之後必疫病流行の事あり、其爲に簡便方を撰むべき旨依被仰付、諸書之内より致吟味出也。

享保十八辛丑年十二月

望月三英
丹波正伯

右は享保十八辛丑年、飢饉之後、時疫流行いたし候處、町奉行所江板行被仰付、御料所村々江も被下候寫、

右は當時諸國村々疫病流行いたし候、又は輕きものども、雜食之毒に當り、相煩難儀いたし候趣相聞候、天明四辰年御藥法爲御救相觸候處、年久敷事故村々に而致遺失候儀も可有之候ニ付、此度爲御救右之寫猶又村々江領主地頭より可被相觸候、
右之通可被相觸候、

四月

〔安政頃痢流行記〕於出島千八百五十八年第七月十三日當日本安政五年五月

此兩三日中、出島市中とも、一時に下痢、且追々吐か、り申候、右患病之者、既に昨十二日、一時に三十人相煩、將又亞墨利加蒸氣船ミシッヒーにおいても、右様之腹痛、多數御座候ニ付、右病原は究て流行のもの、と奉存候、右は他國にても頃日多分發り申候、

一隣國唐土にても、諸街市海岸には、コレラアジアテイス病名流行仕、右ニ付日々死失、多數御座候、由依之出島に罷在候歐邏巴人どもに付、而は、右下痢殊の外變症仕、實眞のコレラ病に不、相成様、防方可仕候に御座候、右之摸様ニ而は、眞實相發可申、右病之害と相成候食物顯然に御座候、右食物類禁止仕、保養之手當示置申候、

第一、胡瓜、第二、西瓜、第三、李、杏子、桃、